

健康登山56:自然歩道29 (上磯尾～柘植)

コース	甲南駅 上磯尾 0.7km/14 明王寺 1.4km/32 フロンティアパーク 1.6km/36 伊勢廻寺 1.3km/25 R775県境 3.1m/69 天神社 2.7/60 ゴルフ場 1.6km/35 余野公園 1.1km/18 合流点 2.5km/39 柘植駅 京都駅		
水平距離	16.0km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	16.4km		
累計高低差	登り403m、下り366m		
標準歩行時間	5:28		
実績歩行時間	5:08		



山行報告

山行日 2010・7・1 (木) 天候 晴 午後 雷雨 参加者 3名

行動 京都駅8:07 甲南駅9:15 上磯尾9:52 明王寺10:15 フロンティアパーク10:59
伊勢廻寺11:30~12:00 R775県境12:20 天神社13:25 ゴルフ場14:30 余野公園
15:02 合流点15:28 柘植駅16:00 京都駅着17:27

記録

今回は甲南駅からコミュニティバスで上磯尾へ行き、東海自然歩道を柘植駅まで歩いた。滋賀と三重の県境にあるコース脇には三角点が3ヶ所あり、探しながら歩くことにして出発した。最初の三角点236.3mは上磯尾集落の東端にあり、地元の人に聞いても分らず茂みの中で見つけれなかった。道標を頼りに畦道をすすむと、すぐに明王寺についた。美しい庭園を通り抜け参拝して、次の目的地伊勢廻寺へ向った。途中、甲南フロンティアパークで小休止。工業団地に通じる広域農道を横断し、三角形の2辺を歩くようにUターンして再び広域農道に戻った地点が伊勢廻寺だった。自然歩道は車道を避けてつけられているのでこのような箇所が随所に見られた。このため思ったより車道歩きが少なく、自然歩道らしい地道を歩くことが出来て快適だった。伊勢廻寺で昼食をさせてもらった。道端には色とりどりのアジサイがきれいに咲いていた。甲賀駅へ向う道と分かれて、交通量の多い県道775をしばらく歩き、県境を越えた地点に余野公園7.9km、柘植駅11.4kmの道標があり、ここから県境沿いの自然歩道に入った。自然歩道は県境の三重県側につけられている。鹿除けの柵を通り抜け、夏草を分け、蜘蛛の巣を払いながら進んだ。東湯船にある三角点264.3mは藪漕ぎになりそうなので行かなかった。間もなく伊賀忍者の里、東湯船の氏神である天神社に着いた。伊賀上野方面や霊山が見えた。県道51から山道に入り、ゴルフ場の南沿いを歩いた。ゴルフ場では雷接近のサイレンが鳴っていた。ゴルフ場の東端に三角点271.7mがあるのだが木立の中で見つけれなかった。やがて道はJR草津線に突き当たるが踏切がないので迂回して余野公園に出た。蒸気機関車D51が出迎えてくれた。余野公園から油日岳がきれいに見えた。1km先が本線ルートと山ノ辺ルートの合流点である。ここから柘植駅まで2.5km、この間で猛烈な雷雨に見舞われた。

自然歩道（上磯尾～柘植駅）



①出発点上磯尾
09:54

②明王寺庭園
10:16



③フロンティア
パーク
10:59

④伊勢廻寺にて
12:00



⑤鹿除け柵を
開ける
12:22

⑥天神社
13:25



⑦ゴルフ場脇の
ササユリ
14:43

⑧余野公園の
D5 1
15:03



⑨余野公園から
油日岳
15:06

⑩山ノ辺ルート
との合流点
15:28



名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：甲賀上磯尾～伊勢廻寺～余野公園～柘植駅）

参考資料 ホームページ他より

明王寺：弘仁2年(811)円瑞上人の開基(中興)と伝える。(円瑞の詳細不明)
本尊は「最澄」が衆人のために、彫ったという不動明王が安置されている。
この像を中心に、四体の不動明王が東西南北に配置されている。
天台寺院に五体の明王像をそろえているのは、きわめて珍しいという。
明王寺は東海自然歩道沿いの高台にあり、庭園が美しく、また祈禱祈願の寺として地元で親しまれている。休憩所や記張ノートが設けられていて、ハイカーの休息目標地点でもある。

三角点：(東海自然歩道に沿って近接する三角点)

【上磯尾】標高 236.3m。上磯尾から明王寺に通じる道の南側の尾根にある。

尾根末端の肩にあり容易に行ける。展望なし。

【甲南町上馬杉】標高 264.3m。南北に延びる尾根の南ピーク。

【甲賀町高嶺】標高 262.3。富士スタジアムゴルフ倶楽部南の丘陵。

伊賀市小杉との県境。

【甲賀町五反田】標高 271.7m。ゴルフ倶楽部南東末端の丘陵。

伊賀小杉と柘植町の境界付近、余野公園の西約 800m。

伊勢廻寺：山号は鷄足山。真言宗泉涌寺派末寺。開創 806 年、開基開山は不詳。

湖国十一面観音霊場七番札所。

本尊：木造十一面観音立像(南北朝)、両脇侍の不動明王(鎌倉)、多聞天立像は、(頭部/藤原期、体は鎌倉期)で、三軀で一括して国重文の指定を受けている。

天台宗の三尊形式として安置されている。(拝観 300 円、予約)

境内の前庭から岩尾山や鈴鹿山系の眺めがある。

東海自然歩道のコース区切りの休憩地にもなっています。

西明寺跡碑：東海自然歩道脇にあり。由緒不明。

あの湖東三山の一つ「西明寺」の前身跡地なのか？想像をかきたてられる。

生玉神社：東海自然歩道の「西明寺跡」標識から南約 150m。(天神社から 10 分弱)

阿山町「西湯舟」地区の氏神で蔵王権現を祀る。4/3 春祭り。6/14 祇園祭。

(大阪、生国魂神社の御祭神：生島神、足島神。=大八州の御神霊(八十島神))

天神社：(湯舟神社)阿山町「東湯舟」地区の氏神。蔵王権現を祀る。3/25 春祭り。

伊賀上忍「藤林長門守」第 4 世の「富治林(藤林)正直」寄進の石灯籠がある。

萬治2年9月(1660)、湯舟郷は東西二村に別れ、氏神も両村に遷宮された。
東海自然歩道から生玉神社～正覚寺～天神社(東海自然歩道)が回遊できる。

正覚寺 : 浄土宗(無住)。伊賀上忍三家の一人「藤林長門守」の墓所。
法名は「本覚深誓信士」。名は「保豊」。一族25基の墓がある。
正覚寺の創建、開基は不詳。平安時代永久3年(1116)に、興福寺末寺とある。
東海自然歩道の「天神社」から約150m南。10分弱。

【藤林長門守】

生没年不詳、伊賀上忍で甲賀との国境にある「東湯舟」の地に居を構え伊賀北部を支配していた。甲賀側にも多くの配下があり、伊賀、甲賀双方に影響力を持っていたとされる。伊賀流の頭領であったが記録はほとんど残っておらずその生涯は謎のままである。

藤林家の祖先は、源頼朝の重臣泉親衡と伝わり、信州戸隠山に挙兵するが、北条氏に敗れ、「湯舟の郷」に居城をかまえたと伝える。

東湯舟字、辻の内に、藤林長門守城跡(室町時代)があり曲輪、土塁、空堀が残る。城跡は東海自然歩道のすぐ南側の丘で、県道51号との間に民家に接してある。

長門守は第二次天正伊賀の乱で織田信長軍と最後まで戦った上忍三家の「百地丹波」と同一人物である説や、甲賀の多羅尾氏とともに信長軍の手引きをして生き残ったという説もある。

藤林家由緒書に今川義元に雇われた際に、武田信玄の軍師「山本勘助」に忍術を教えたという。阿山町の歴史ガイドでは、長門守が戸隠流忍術を教わり、火術、火筒、狼煙など、火を扱う忍術が得意であったとある。

江戸時代に長門守子孫の「藤林保武」は忍者秘伝書「萬川集海」^{ばんせんしゅうかい}を著している。

これは伊賀、甲賀四十九流といわれる忍術の諸流を集大成したものです。

【手力神社】^{てぢからじんじや}祭神:天手力男(雄)命(アメノタヂカラノミコト) : 天の岩戸で活躍。

正応年間(1288~1293)に信州「戸隠神社」から勧請されたと伝える小社。

「藤林長門守」の守護神社。長門守はこの地に住んでいたと伝える。

10月17日の例祭は奉納花火祭で、忍者の狼煙だったといわれる、願火花火が打ち上げられる。

手力神社の奉納花火は「長門守」や「蒲生氏郷」が奉納したという記録もあるそうです。

大正末期まで花火は氏子の若者が、すべて手づくりしたという。

正覚寺から南西約 500m。

伊賀三大上忍：藤林長門守、服部半蔵、百地丹波。

【藤林長門守】前述。生没年不詳。記録はほとんど残っていない。

【服部半蔵】服部氏族に「千賀地」「百地」「藤林」があった。

千賀地家の初代半蔵

「保長」は忍者で、旧姓の服部に戻し伊賀を出て 12 代将軍足利義春に仕え、次に松平清康に仕える。

通称「半蔵」の名乗りは、代々の服部半蔵家の歴代当主が用いた。

2 代目半蔵「正成」(1542～96)は徳川家康に武将として仕え、手柄を立て後に、徳川十六神将に数えられている。八千石を知行した。渾名(あだな)は鬼半蔵。

正成自身は武将であったが、父が伊賀出身のため、伊賀忍者を統率する立場になる。

「本能寺の変」のとき家康が「伊賀越え」の際、**正成**は甲賀、伊賀の土豪と交渉し、彼らに警護させて、一行を安全に通行させ、伊勢から三河まで護衛した。

後に甲賀同心、伊賀同心として幕府に仕えている。

江戸城(皇居)大手門の正反対にある門「**半蔵門**」は、伊賀同心がこの門外で組屋敷を構え、江戸城の警備を担当していた服部半蔵正成、正就父子の通称「半蔵」に由来する。

【百地丹波】1512～1581? 戦国時代の伊賀忍術の祖とされる。

天正 7 年(1579)伊賀攻め「第一次天正伊賀の乱」では、北畠(織田)信雄を撃退。

天正 9 年(1581)「第二次天正伊賀の乱」で信長軍 4 万 5 千の大軍に侵攻され、比自山城(上野市長田)に土豪妻子 2760 人が最後の拠点として立て籠ったが落城。

「柏原の砦」に集結し激しく抵抗したが、落城寸前で突然和睦仲介人? が入り城兵の人命保護を条件に、開城降伏した。

「丹波」は多くの一族とともに戦士したというが最後が解らず、以後消息を断った。異説として、文禄 4 年(1594)くらいまで生きていたという説もあるらしい。

【柏原城】名張市赤目町柏原。城跡碑、土塁、二重堀、井戸などの遺構あり。

土豪滝野氏の城。最後の決戦地として伊賀郷土たちが、織田軍に戦いに臨み

「天正伊賀の乱」の終結を迎えた場所。

伊賀の城跡：(東海自然歩道に沿って近接する城跡、阿山町湯舟近辺)

【服部氏城跡】東湯舟「中北」手力神社北側の丘陵地。個人宅の背後にある。

曲輪、土塁、堀切。

東海自然歩道の南、約 400m

【藤林長門守城跡】東湯舟「辻の内」丘陵地。曲輪、土塁、空堀。(正面は民家)

東顔自然歩道の南、約 50m。藤山摂津守城の東、約 100m。

【藤山摂津守城跡】東湯舟「城の谷」丘陵地。曲輪、土塁。(正面は民家)

東海自然歩道の南、約 50m。藤林長門守城の西、約 100m。

藤山摂津守は伊賀の郷土、天正伊賀の乱に、服部氏と雨乞山(城)に立て籠もって戦った。(雨乞山 269m。阿山町下友田)

【城の谷館】甲南町「上馬杉」天神社東約 150m。個人宅を囲むように土塁が残る。

東海自然歩道の北、約 50m。

館の所在地は「東湯舟字城の谷」になっているが、甲南町との県境に入っている。

余野公園：関西一を誇るツツジの名勝地。約 8 ha の面積を持つ。サクラ、紅葉など四季

を通じて楽しむことができる。遊歩道や施設も整備され、公園の一角に、蒸気機関車(D51 - 831)が展示されている。

毎年 5 月につつじ祭が開催され 2 万人の集客があるという。

余野公園西側の車道辺りは、伊賀、甲賀を結ぶ古代の街道「^{くらふみち}倉歴道」で「壬申の乱」の激戦地です。(倉歴：油日、余野一帯)

6 月 24 日、吉野を出た大海人皇子は、近江から脱出した息子の高市皇子 19 歳と倉歴で合流、加太峠から鈴鹿を経て私領地の美濃国に入り、7 月 2 日に

出陣。「倉歴道」「鈴鹿峠」「不破の関」を確保できたことが、大海人皇子軍の勝因の一つといわれています。

672 年 7 月 5 日、朝廷軍の夜襲で倉歴を守備していた大海人皇子軍側は、一時は敗走するが、^{たらしの}莉萩野(柘植)に配備されていた大海人皇子軍三千の守備軍が迎撃応戦し、朝廷軍は撃退された。7 月 23 日瀬田唐橋の決戦で、戦いは終わる。

(莉萩野：柘植川と河合川の合流部地帯で、旧名松下冷機工場近辺一帯)